

2050年までにオゾンホールが消滅する?

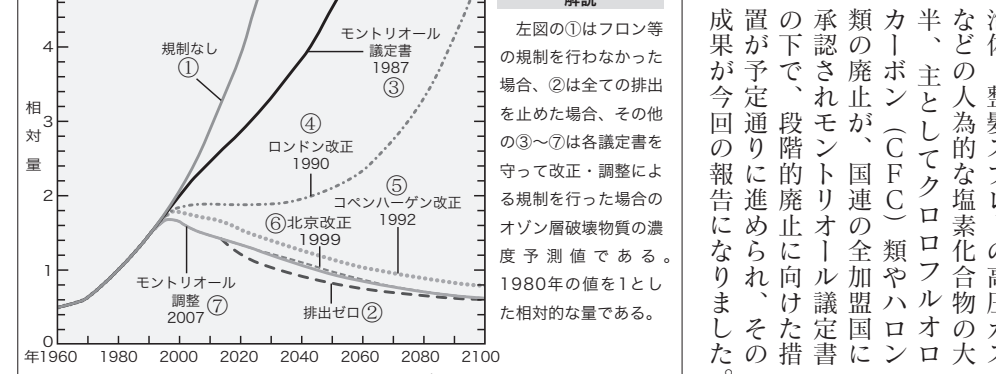
本誌67号でも取り上げましたオゾンホールの縮小が、米航空宇宙局(NASA)の観測の結果、2050年までに完全にふさがると予測されました。国連(UN)も数少ない良いニュースとして、今世紀半ばまでの回復へ「順調に進んでいる」と発表しました。

有害な紫外線を防ぐ地球を守る重要な「盾」であるオゾン層に関して、国連環境計画と世界気象機関が4年ぶりに発表した報告書によると、オゾン層の保護を目的として1987年に採択された「モントリオール議定書(Montreal Protocol)」は大きな成功を収めており、画期的な同議定書が採択されなければ、皮膚がんの患者数が2030年までに今より毎年200万人増加し、オゾン層を破壊する化合物の濃度が2050年までに10倍

高くなったかもしれないと、紫外線によって人間の視力が損なわれたり動植物が損傷したりする事態も、同議定書が採択されたおかげで回避できました。報告書は述べています。国連環境計画のアヒム・シュタイナー事務局長は、オゾン層を破壊する化学物質を廃棄するための期限を定めた同議定書を、歴史上で「最も成功した環境条約の一つ」であると評していますが、更に続けて「だが、われわれが直面している課題は、いまだに非常に大きい。モントリオール議定書の成功は、オゾン層の保護と回復だけでなく、気候に対するさらなる活動の後押しとなるはずだ」と、オゾン層破壊問題と同じように、温暖化問題に対する国際協力の必要性に言及しています。

国際協力の成果で温暖化防止にも希望が生まれる!

オゾン層の回復はフロンという原因物質を特定し、人類共通の目標を定めて国際的に努力した結果、急速にオゾン層の回復を促進しました。IPCC(気候変動に関する政府間パネル)が「温暖化を阻止するに当たっては、まだある」と、言い切るのは、「モントリオール議定書」で、オゾン層を回復できたという自信があるからです。人知を結果すれば温暖化は絶対防げると確信するためには、我々個々人もまた、意識して省エネルギー活動や温暖化防止活動に参加することが重要になります。



モノリオール議定書と国際協力の経過!

オゾン層を保護するため1985年に「ウィーン条約」、1987年に「モントリオール議定書」が採択され、国際的なオゾン層破壊物質の使用が禁止され、日本国内では1988年に「オゾン層保護法」が施行されました。「オゾンホール」現象は、自然現象では高高度域が極度の低温になることで起きるのですが、人為的にはエアコンや冷蔵庫の冷却剤、断熱材の発

代替物質が温暖化促進物質になっている!

報告書によると、オゾン層を侵食している化合物として指摘されている「四塩化炭素」は、モノリオール議定書で廃止の対象となっておりにもかかわらず、生産量が増加し続けており、四塩化炭素の大气中濃度の測定値は、過去10年間に各国より報告された生産量と使用量の統計値を「はるかに上回っている」と報告されているなど、まだまだ違法に生産・使用されている。違反物質が多く、オゾン層破壊物質の代替物質が、温室効果ガスとして影響している場合も少なく無いようです。問題なのは、クロロフルオロカーボン(CFC)類の代替物質としてハイドロフルオロカーボン(HFC)類への移行が進んでいることで、HFC類は、オゾン層を破壊しない代わりに太陽熱を吸収する強力な物質になる可能性があるようです。

21世紀半ばまでにオゾンホール完全消滅!

赤トンボ

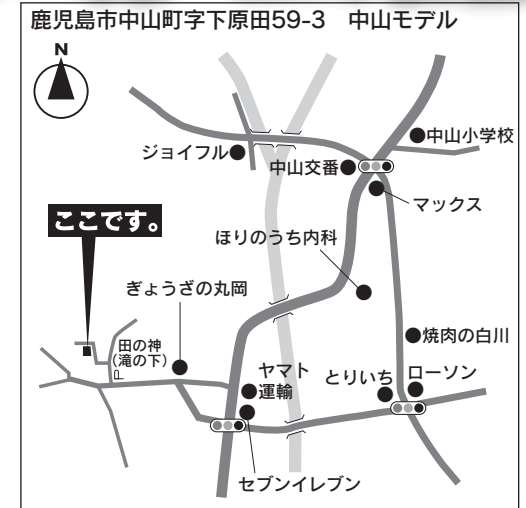
▼今回は、オゾンホールの消滅が現実になった報告をしました。が、本年末に、国連気候変動枠組条約(UNFCCC)の「第21回締約国会議(COP21)」がフランスのパリで開催されます。このCOP21で2020年以降の世界の気候変動・温暖化対策の方向性が合意される予定です。この会議の結果によって、世界がどの程度気候変動を防ぐことができるか、すでに起こっている影響を軽減できるか、といったことが決まると言われています。本年が地球にとって非常に重要な年のはそのためです。米・中国など環境汚染大国も主要な立場で発言しています。それが環境問題が深刻化していることに他なりません。地球の将来が本年決まると言っても過言ではない重要な年です。

赤トンボ

世界各国の科学者ら300人がまとめた110ページからなる今回の報告書は、オゾン層に関しては全般的に良い知らせと報告していますが、潜在的な落とし穴についても警告を発しています。

ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013・スペックの展示場

中山展示場 公開中!



本展示場は【ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013】大賞受賞スペックを参考にして造った展示場です。暖冷房はエアコンだけという最もシンプルな構成で住宅性能の良さだけで、省エネルギーを目指した展示場です。これから逼迫が予測されるエネルギー事情を見据えた高性能展示場です。下記「平屋感覚の展示場」のすぐ近くですから、両方を同時にご覧下さいませことをお勧め致します。下記展示場は太陽光発電搭載の「ネット・ゼロ・エネルギー」住宅です。



ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013・スペックの展示場

川内展示場 公開中!



本展示場は【ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー 2013】大賞受賞のスペック通りに造った展示場です。エアコン一台程度で冬も夏も快適な暖冷房を可能とした省エネルギー、超高性能住宅です。鹿児島県に相応しい期間蒸暑地域対応型住宅として、全国的に評価された工法です。設備は少ないけれど、更新に必要な資金は少なくなります。



□住宅に関する資料等もフリーダイヤルにてご請求下さい。資料等をお送り致します。

0120-079-089